

プロになるためのライフプラン

世田谷区立塚戸小学校五年 小川 泰地

ほくは、将来プロサッカー選手になりたいです。八才のころから様々なサッカーリーグを見ておりそこで活やくする選手のプレーがカッコよかったです。あこがれの選手は、レアル・マドリードでプレーするトニクロース選手です。パスがうまいしテクニックもあるから、ほくもトニクロース選手を目指したいです。今回、ライフプランを書いて、プロサッカー選手を目指すためにいつ、何を努力しなければいけないのか、具体的に目標が分かってきました。

まず、そもそも日本にプロサッカー選手は何人いるのか調べてみました。結果、日本のサッカー人口は四百八十万対して、現在のJリーガーになれる確りつは、0.03パーセントで一人に三人という計算になります。この数字を見て、ほくは正直とてもきびしいと思いました。しかしそれだけサッカーを仕事としてい

る選手は非常に限られており、プロ選手は結果を出し続けなければいけないきびしさがあることが分かりました。けれど三億もの職業があるためまだ希望はあると感じました。

そんなきびしいプロサッカー選手を目指すため、高校は國學院久我山高校に進みたいと思っています。二〇一五年の高校サッカー選手権大会の準決勝で最後まであきらめないということを教えてくれたからです。加えて、久我山の細かくつなぐパスサッカーにみ力を感じています。その久我山を目指すには、サッカーができるだけでなく、勉強の成績も残せていることが必要だと知りました。久我山のサッカー部は文武両道を求められます。入学、入部時点で「高校三年生の冬、大学受験の一カ月前までサッカー部の活動がある」という前提で一日約二時間のサッカー練習と学校の勉強を毎日こなして

ゆく生活が求められます。そのために今から自分ができることは何か考えました。一つ目は、クラブチームに挑戦することです。二つ目は、勉強でも結果を残せるよう努力すること。そして三つ目は、サッカーと勉強を両立するための時間の使い方、気持ちの切りかえなどを学んでいくことです。

この夏、所ぞくするサッカーチームの選抜として、毎日牧場杯という大会に参加してきました。そこであるJリーグ下部組織チームと戦い、大敗してしまいました。その時、コーチから実力の差ではなく、気持ちの差が大きいと言われまして。本気でプロを目指し結果を残そうとしている気持ちというのを理解出来まして。この経験を通じて、サッカーの技術だけでなく、気持ちをきたえること、そして勉強との両立などこれから努力することは沢山あると感じました。

小川 泰地のライフプラン
 将来なにになりたいか？ サッカー選手
 その理由：今でも日本のリーグ、Jリーグを初め色々のサッカーリーグを見ている。するとフーリーなどにあこがれ、今、そのためにサッカーをかんはっているから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2018年	11(小5)	サッカーをかんはる	習い事の月謝
2019年	12(小6)	小学校卒業	習い事の月謝
2020年	13(中1)	中学校入学 <small>クラブチーム入団</small>	活動費
2021年	14(中2)	クラブチームで活やく	
2022年	15(中3)	高校受験、中学卒業	
2023年	16(高1)	國學院久我山高校入学 大会で結果を残さ	授業料
2024年	17(高2)	高校サッカー出場	
2025年	18(高3)	國學院久我山高校卒業	
2026年	19(大1)	大学入学 大会で結果を残さ	サッカー参加人口 480万人
2027年	20(大2)		JFA登録94万人 → 9.2万人
2028年	21(大3)		Jリーグへ行ける確り 0.03%
2029年	22(大4)		J1 571人 ヴッパ J2 638人 全休 J3 376人 15歳以下
2030年	23	大宮アルディージャに入団	
2031年	24	レギュラーキープ	
2032年	25	リーグで結果を残さ	
2033年	26	川崎フロンターレに移籍	
2047年	35	引たい	

参加人口
480万人

×モ
 将来の夢の職業になれるのか
 11%しかないから
 ちよと悲しいけど
 3億もの職業があるのだから
 希望はある。